



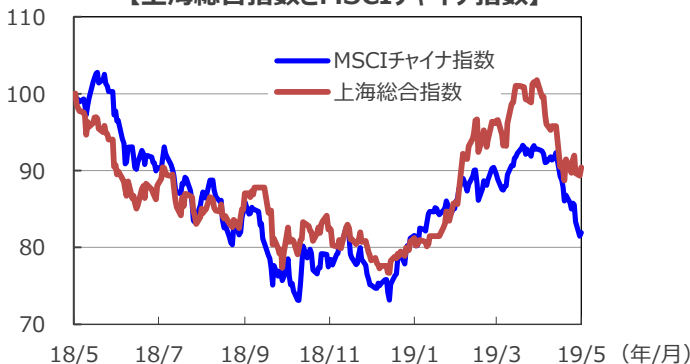
今日のトピック 大幅に調整した中国株式市場（2019年5月）
米中貿易摩擦の激化を嫌気

【中国株式市場の推移】

中国株式指数	基準日	騰落率 (%)			
	5月21日	1か月	3か月	6か月	1年
MSCIチャイナ指数	76.92	▲10.4	▲6.2	1.5	▲16.9
中国本土市場					
上海総合指数	2,905.97	▲5.6	▲1.2	12.3	▲6.1
深セン総合指数	1,548.68	▲5.4	0.2	15.8	▲12.4
香港市場					
H株指数	10,634.62	▲7.9	▲6.4	0.1	▲11.2
レッドチップ指数	4,301.95	▲6.2	▲3.5	▲0.8	▲6.6

(注) データは2019年5月21日基準。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ポイント) 【上海総合指数とMSCIチャイナ指数】



(注1) データは2018年5月21日～2019年5月21日。
(注2) 2018年5月21日を100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント1 5月の中国株は大幅調整

- 5月に入り、中国株式市場は大幅に調整しています。トランプ大統領が5日、中国製品に対する追加関税の引き上げをツイッターで示唆したことを受けて、地合いが悪化しました。9～10日の米中協議は不調に終わり、米国は2,000億米ドル分の中国製品への追加関税を引き上げ、中国は報復措置を発表しました。米国はさらに、約3,000億米ドル分に課す制裁関税を公表するなど、米中関税合戦が激化し、景気の先行きに対する警戒感から、株式市場は全面安の展開となりました。加えて、16日に米政府が華為技術（ファーウェイ）に対する制裁措置を発動したことが市場心理を冷やしました。投資家のリスク回避姿勢が広がり、上海総合指数は20日に約3か月ぶりの安値をつけました。

ポイント2 政策対応強化で景気失速は回避へ

- 米中貿易摩擦が一段と激化していることで、中国の景況感は5月以降、明確に悪化すると考えられます。こうした景気の下押し圧力に対し、中国政府は即効性の高いインフラ投資を中心に政策対応を強化し、景気失速を回避させるとみられます。政府は今年の歳出予算を大きめに計上しており、財政拡大余地があります。

今後の展開 米中通商交渉の行方に注目

- グローバル景気に大きな影響を及ぼす米中通商交渉の行方が引き続き最大の注目材料です。今後両国が歩み寄り、米中首脳会談の実現など米中協議が進展することが期待されます。ただ、交渉の帰趨に関わらず、中国政府の政策対応で景気の失速は回避される見込みです。完全な交渉決裂に至らなければ、株式市場は徐々に落ち着きを取り戻すと思われます。

* 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここもチェック! 2019年5月22日 中国の『住宅価格』は堅調の見込み
2019年5月15日 減速感が強まった中国経済（2019年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。